

目次

はしがき

第1章 近代の理念とゆらぎ…………… 1

——川島法社会学の理論と実践——

1 近代化の課題 1

2 法の精神と法意識 9

近代の必然性 10

法意識論の批判 14

前近代の意味転換 19

法文化の恣意性 23

3 市民社会の展望 26

第2章 権利と共同体…………… 29

1 権利へのアンビバランス 29

2 権利の構想とその限界 36

暴力の認知 36

ミクロな暴力 39

対話の不在 43

3 共同体の可能性 46

第3章 離婚後の面接交渉と親の権利…………… 49

——比較法文化的考察——

1 離婚の現実 49

2 面接交渉否定の論理 53

3 面接交渉の権利性 59

親の権利の憲法的保障 60

子の福祉と親の権利 65

目次

4 面接交渉の協同性
 還元主義の弊害 76
 エクイティの確保 82
 プライバシーの理念 90

第4章 法化社会と裁判

——国際化時代の日本の裁判——

1 法執行から法実現へ 99
 法実現との乖離 100
 法執行の操作的目標 104
 執行のゆらぎ 106

2 執行のゆらぎから法秩序のゆらぎへ 110
 権利保護 110
 自己統治 112
 統制関心の交錯 115
 小文字の法 117

3 裁判の役割 121
 参加促進機能 121

自律援助機能 123

第5章 語りとしての法援用

——法の物語と弁護士倫理——

1 党派的弁護の倫理 127
 没倫理性への批判 127
 自律と道徳との緊張 129

2 法における疎外 138
 私と公の峻別 138
 目的の被構成的性格 142

3 行為の表出性 148
 目的から意味へ 148
 法の自律性 150
 世界理解の更新 153

4 法の物語 155
 事実認定の物語性 155
 法の解釈と物語 161

注	195
あとかき	239
初出誌一覧	242
5 関係的主体	166
疎外の克服	166
他者の可視化	166
内属性の倫理	182
6 まとめ	188
内属性の倫理	179